

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備	施策	① 国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化	
			施策の小項目名	○空港・港湾機能の強化	
主な取組	那覇空港の滑走路増設整備			実施計画記載頁	357
対応する主な課題	①アジアの経済成長と活力を取り込む橋頭堡を築き、我が国及びアジア・太平洋地域の発展と連動した21世紀の「万国津梁」を実現するため、交流の玄関口となる空港・港湾の機能強化、陸上交通のアクセス性、周遊性の向上など国際的な交通・物流の拠点となるインフラの重点的な整備が必要である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
沖縄の地域経済を支える観光需要に対応するため、滑走路処理能力を年間13.9万回から18.5万回に増大させる滑走路増設事業を促進し、那覇空港の機能強化を図る。						
実施主体		国				
担当部課【連絡先】		企画部交通政策課 【098-866-2045】				
		滑走路増設整備(2,700m)				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 那覇空港滑走路増設事業							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 滑走路増設事業の平成31年度予算の確保について国に要請するとともに、事業の円滑な推進のため、課題について関係機関と協力して取り組んだ。 ○R元(H31)年度: 平成31年度末供用開始予定の滑走路増設事業が円滑に推進されるよう、課題について関係機関と協力して取り組む。
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄	
予算事業名 —							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: —
		—	—	—	—	—	—		○R元(H31)年度: —

様式1(主な取組)

活動指標名	滑走路増設整備(2,700m)				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	滑走路増設 整備の推進	—	100.0%	0	順調	<p>活動概要</p> <p>那覇空港滑走路増設事業の平成31年度予算の確保について、国に要請した。 また、平成31年度末供用開始に向け、事業が円滑に推進されるよう、課題について関係機関と協力し取り組んだ。</p>
活動指標名	—				H30年度					
実績値										
活動指標名	—				H30年度					
実績値										
活動指標名	—				H30年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案						反映状況				
<p>①沖縄振興の施策展開への影響が無く那覇空港滑走路増設事業の予算が確実に確保されるように、平成31年度末供用開始に向け、今後も国に着実な整備を行っていくよう要請していく。</p> <p>②県は平成31年度末供用に向け、事業が円滑に推進されるよう、引き続き、諸課題について関係機関と協力し取り組む。</p>						<p>①那覇空港滑走路増設事業の平成30年度予算は、平成29年度予算と同等額(国費で330億円)が計上され、所要額を確保することができた。</p> <p>②課題となっている漁船の移転先となる船だまり整備について、関係機関と協力し、平成30年度から具体的な整備に向けて調査設計を開始した。</p>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

・那覇空港滑走路増設事業は、平成25年度に新規事業化され、平成31年度末に供用開始を予定している。同事業が計画どおり着実に推進されるよう、引き続き課題について国等と協力し取り組む必要がある。

##### ○外部環境の変化

・平成31年3月の際内連結ターミナルの供用開始により国際線の受入能力が強化された他、国内線・国際線ともにLCCの路線数、便数の増加が見込まれており、更なる旅客数の増加が見込まれている。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・平成31年度末供用開始の計画どおりに整備が進むよう、引き続き、関係機関との会議等で連携を図る。

### 4 取組の改善案(Action)

・県は平成31年度末供用開始に向け、事業が円滑に推進されるよう、引き続き、課題について関係機関と協力し取り組む。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備	施策	① 国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化	
			施策の小項目名	○空港・港湾機能の強化	
主な取組	那覇空港旅客ターミナルビルの整備			実施計画記載頁	357
対応する主な課題	①アジアの経済成長と活力を取り込む橋頭堡を築き、我が国及びアジア・太平洋地域の発展と連動した21世紀の「万国津梁」を実現するため、交流の玄関口となる空港・港湾の機能強化、陸上交通のアクセス性、周遊性の向上など国際的な交通・物流の拠点となるインフラの重点的な整備が必要である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
沖縄の地域経済を支える観光需要に対応し離島住民を含む県民活動の要となる那覇空港の利便性向上に向け、国際線および国内線の旅客ターミナルを連結する施設を整備し、旅客ターミナル施設を一体化する。また、近年の国際線利用客の急増に対応すべく、CIQおよび周辺施設の増築を行う。						
実施主体	那覇空港ビルディング(株)、国	ターミナル連結整備		CIQ施設増築		
担当部課【連絡先】	企画部交通政策課	【098-866-2045】				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)			
予算事業名	際内連結ターミナル施設整備						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 際内連結ターミナル施設について、整備が円滑に進捗するよう関係者と調整するなど協力し取り組んだ結果、平成31年3月18日に供用開始した。 ○R元(H31)年度: —	
	その他	那覇空港ビルディング(株)	那覇空港ビルディング(株)	那覇空港ビルディング(株)	那覇空港ビルディング(株)	那覇空港ビルディング(株)	—			
予算事業名	CIQ施設増築						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: CIQ施設および関連ターミナル施設増築について、整備が円滑に進捗するよう関係者と調整するなど、協力して取り組んだ。 ○R元(H31)年度: CIQ施設および関連ターミナル施設増築について、整備が円滑に進捗するよう関係者と調整するなど、協力して取り組む。	
	その他	—	—	—	—	国・那覇空港ビルディング(株)	国・那覇空港ビルディング(株)			

様式1(主な取組)

活動指標名	ターミナル連結整備				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	供用開始	—	100.0%	0	順調	<p>際内連結ターミナル施設について、整備が円滑に進捗するよう関係者と調整するなど協力し取り組んだ結果、平成31年3月18日に供用開始した。また、CIQ施設および周辺関連施設の整備については、平成30年12月に着工した。</p>
活動指標名	CIQ施設増築				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>際内連結ターミナルの供用開始により、国際線・国内線の施設が連結されたとともに、これまで専用バス移動が必要だった貨物地区の暫定ターミナルからLCC便が移転し、国際線・国内線・LCCを含めた定期便の全てが一体化したターミナル施設を発着することとなり、利便性が飛躍的に向上した。国際線CIQ施設および周辺関連施設の整備については順調に推移しており、令和2年夏季の一部供用開始を目指している。</p>
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案						反映状況				
<p>①際内連結ターミナル施設については、円滑な整備計画工程で行われることに加え、那覇空港の将来需要への対応や旅客の利便性、快適性の向上を考慮した施設となるよう、引き続き、関係者等と協議を行う。</p> <p>②国が策定する「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」について、増大する航空需要を的確に予測しターミナル施設の拡張等を盛り込むなど、民航エリアの拡張に向けた計画の改訂に係る協議を、引き続き国と行っていく。</p>						<p>①際内連結ターミナル施設については、平成29年1月に着工した建設工事が平成31年2月に竣工し、概ね計画どおり平成31年3月18日に供用開始した。また、将来需要への対応や旅客の利便性、快適性の向上を考慮した施設となるよう、関係者と会議を行った。</p> <p>②「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」の改訂に向け県が考える将来像について調査検討するとともに、まずは現行計画の範囲内における運用改善策として空港の構内道路や接車帯の利用方法、駐車場の整備計画等について国や関係事業者を含めた会議を行った。</p>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

・那覇空港旅客ターミナルについては、平成31年3月の際内連結ターミナル施設の供用開始により国際線・国内線・LCCが一体化し利便性が大幅に向上した。  
・国際線チェックインカウンターは3倍の60ブースに増強したうえインラインスクリーニング化を図ったことで混雑が大幅に解消されたが、CIQ(税関・出入国審査・検疫)施設は現況のままであるため、時間帯によっては施設が混雑する状況が今後一定程度継続することが想定される。

##### ○外部環境の変化

・現在、滑走路1本としての処理能力の限界近くで発着回数が頭打ちとなっているが、令和2年3月には那覇空港第2滑走路が供用開始し、発着回数の増加が見込める。  
・近年はアジアからの旅客およびLCC利用客が急激に増加しており、国内線・国際線ともに路線数・便数の増加に伴い、更なる旅客数の増加が見込まれている。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・平成30年12月に着工した国際線CIQ施設および周辺関連施設の工事が順調に進捗し、令和2年夏季に一部施設が供用開始できるよう、事業主体の国や那覇空港ビルディング(株)と調整していく。  
・那覇空港のターミナル等については、国が策定する「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」に基づき事業を展開していくこととなるが、第2滑走路の供用に伴う発着回数の増加や駐機場の不足に加え、予測を上回る航空需要の拡大により民航エリアの急速な狭隘化が見込まれることから、基本計画の見直しについて、引き続き国と協議を行っていく必要がある。



### 4 取組の改善案(Action)

・平成30年12月に着工した国際線CIQ施設および周辺関連施設の工事が順調に進捗し、令和2年夏季に一部施設が供用開始できるよう、事業主体の国や那覇空港ビルディング(株)と調整していく。  
・国が策定する「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」について、増大する航空需要を的確に予測しターミナル施設の拡張等を盛り込むなど、民航エリアの拡張に向けた計画の改訂に係る協議を、引き続き国と行っていく。